

ご家族・二世帯住宅の方へもご回覧下さい。

保存版

# 防災だより

第 11 号

平成 31 年 3 月 3 日発行

小田急金森泉自治会 自主防災隊

## 大地震発生～避難生活への流れ

自分と家族の安全確保

まず自分の身、外出者確認は後で  
(1分～数分)

地域での助け合い

声かけ・避難支援(要支援者など)  
地域の安否確認・被害確認  
救助・応急手当・消火や延焼防止  
以上には、訓練が欠かせない

各班の集合場所を中心に活動  
(確認は30分程度・夜間や雨天は  
もっとかかる)  
幼児・児童など引取りは、班長に告げて行く

避難広場(わさび田公園)

地域の安全確認ができるまで  
(数時間～1日程度) 応急手当など

自宅・自宅敷地

自宅に損傷がないなどのとき

テントや自家用車暮らしもあり得る 備えの有無が明暗をわける

避難施設(小川高校)

自宅に住めないとき(損壊・焼失・生活不可能)

自治会ごとなどに、校庭集合・簡単な手続き・屋内へ順次入居

原則「体育館」での寝起きで3.3㎡に2人目標(1人畳1枚分)

被害が大きければ、数ヶ月に及ぶかも知れない

- 支援物資・各種支援・情報は避難施設(小川高校)に届く。自宅生活者向けも
- 地域の24時間警備も必要になりそう
- 地域の様々な活動に住民がそれぞれ出来ることに協力して取り組む必要ありそう

自らを守ることで地域が守られ、地域を守ることで自らが守られる!